紡ぐ
くらしの
情報誌

バリバリ通信

2025 AUTUMN
VOL.129

自然との共存を目指す ウミガメの博物館

●大ガメプールで悠々と泳ぐウミガメ

日和佐（ひわさ）うみがめ博物館カレッタ

徳島県海部（かいふ）郡美波（みなみ）町

その名の通り、美しい波がうちよせる町、徳島県南部の美波町には、人と自然がともに紡いできた、かけがえのない物語がある。町のシンボルである大浜海岸は、「日本の渚百選」や「四国のみずべ八十八ヶ所」にも選ばれている美しい海岸で、毎年五月から八月頃にかけて、アカウミガメが夜の浜に上陸し産卵を行うことで知られている。

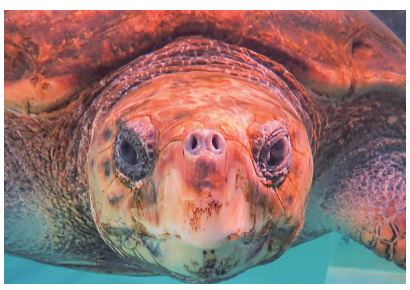
この海岸沿いに建つ「日和佐うみがめ博物館カレッタ」は、アカウミガメの学名「Caretta caretta」にちなんで名付けられた、世界でも珍しいウミガメの博物館だ。全面改修のため二年間の休館を経て、二〇二五年七月十九日にグランドオープンを迎えた。新たに大ガメプールや、アニマルウェルフェアに配慮した展示、町とウミガメの歩みを紹介するコーナーなどが設けられ、より深く自然とのつながりを感じられる施設となっている。

館内に入ると、まず目に飛び込んでくるのは、二億年に及ぶウミガメの進化の歴史を描いた展示。世界に八種類いるウミガメの剥製やレプリカが並び、その生態に迫る構成からは、人と自然の共生というテーマが強く伝わってくる。かわいらしい子ガメが泳ぐ水槽のほか、まるで目の前の太平洋とつながっているかのような迫力満点の大ガメプールもあり、餌やりやふれあい体験も楽しめる。

大ガメプールで悠々と泳ぐウミガメ「浜太郎」は、今年で七十五歳。博物館の中で一番の先輩だ。一九五〇年、日和佐中学校の生徒たちが卵からかえし、大切に育てた個体で、飼育下では世界最高齢とされる。浜太郎は、この町の人々とウミガメが築いてきた長い歴史を象徴する。

昭和二十年代半ば、戦後の食糧難の中で肉をとるために殺されたウミガメの死骸を、海岸で発見した日和佐中学校の教師と生徒たちが涙を流し、憤りを感じたことが始まりだった。彼らは「僕たちでウミガメを日本中に知らしめて、こんなことが起こらないようにしよう！」と「ウミガメ研究班」を結成し、自発的にウミ

●大浜海岸は南北約500mの美しい砂浜が続く



●浜太郎は年齢が分かっているアカウミガメとしては世界最高齢

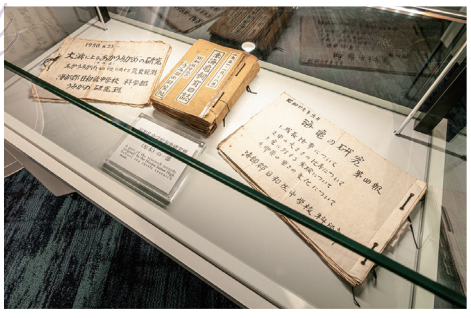
●屋外に設置された大ガメプールではウミガメたちが優雅に泳いでいる

●ウミガメの生態についてわかりやすく学べる様々な展示コーナー

四国ガス燃料
https://www.shikoku-gasnen.co.jp/

日和佐うみがめ博物館カレッタ

徳島県海部郡美波町日和佐浦369　TEL 0884-77-1110
営業時間／火～日 9時～17時
定休日／月曜日※月曜が祝日の場合翌日が休館日
入場料／大人（高校生含む）1,000円・中学生500円・小学生300円・幼児（3歳以上）100円・2歳以下無料
WEB https://caretta.town.minami.lg.jp/


●日和佐中学校生徒による当時の研究資料も展示されている

●1950年に発足した日和佐中学校ウミガメ研究班

ガメの観察と保護活動に乗り出す。

当時はウミガメに関する情報がほとんどなく、飼育方法もわからないままのスタートだった。生徒たちは夜の砂浜にテントを張り、交代で巡回して産卵を観察。手探りで温度や湿度の記録を取り、ふ化の経過をノートに残した。八百屋さんからもらった漬物樽を水槽に子ガメを育てる日々。失敗や困難の連続だったが、その一つひとつの経験が、ウミガメの生態解明や保護活動の礎となっていった。研究成果は当時画期的で、新聞や雑誌にも掲載され、様々な科学賞を受賞するまでに至る。これらの記録や研究ノート、写真などの貴重な資料は、館内に展示されており、当時の取り組みの熱意を今に伝えている。

生徒らの懸命な活動は次第に地域全体の意識を変えていく。やがて町では「ウミガメは守るべき存在」という考えが広がり、価値観が大きく転換された。浜太郎は、その象徴として大切に育てられ、世代を超えて多くの人々に引き継がれている。

美波町は「ウミガメ研究発祥の地」としても知られるようになり、保護活動は地域ぐるみで継続されている。現在でも夜間の見回り、産卵調査、ふ化率調査や海岸に漂着したウミガメの調査といった活動が行われている。これは単なる自然保護にとどまらず、環境教育の場としても大きな役割を果たす。子どもたちにとっても、命の尊さや自然との向き合い方を学ぶ貴重な経験となるだろう。

しかし、近年はウミガメの上陸回数が最盛期の十分の一以下にまで減少しており、回復の兆しは見えないという。ウミガメは暗く静かな浜での産卵を好むが、町の発展とともに海岸周辺には人工建築物が増え、道路や街灯の光が浜辺に及ぶようになった。これがウミガメの回帰率を下げる原因の一つとされている。

そのため町では、浜辺の静寂と暗さを取り戻すための環境リデザインに取り組んでいるそうだ。光害を抑える照明の導入、車の通行規制、植生の保護など、ウミガメが再び安心して戻って来られる浜の再生を目指している。観光と開発だけでなく、地域の未来を自然とともに築こうとするその姿勢は、今こそ多くの人に共有されるべき取り組みである。

波音に耳を澄ませながら歩く美しく雄大な大浜海岸、そして「カレッタ」で出会う、たくましくも愛らしいウミガメたち。その姿は、人と自然が共に生きる豊かな未来の象徴だ。生命の歴史を知り、体験を通じて守る意志を育むこの場所は、まさに「共存」の大切さを実感できる、生きた学びの場といえるだろう。

お立ち寄りSPOT

道の駅 日和佐

JR牟岐線日和佐駅と国道55号に接して立地し、駐車場も広く利用しやすい道の駅。産直品や地元のお土産を数多く取り揃えている。

徳島県海部郡美波町奥河内字寺前493-6 TEL 0884-77-2121
営業時間／9:00～17:30・年中無休・無料駐車場あり

おみやげ紹介